

特 別 委 員 会 調 査 報 告

平成 23 年 10 月 12 日

薩摩川内市議会

原子力発電所対策調査特別委員会

委員長 小 牧 勝 一 郎

1 委員会の開催日

9 月 21 日

2 川内原子力発電所の安全対策に関する調査

(1) 川内原子力発電所の運転状況等について

当局から、1号機は本年5月10日から第21回定期検査を開始していること、2号機は、本年9月1日から第20回定期検査を開始していることの報告を受けた。

次に、気体廃棄物及び液体廃棄物の放出量は年間放出管理目標値を下回っていること、固体廃棄物の貯蔵率は52.5%であること、使用済燃料の貯蔵率は59.0%であること、法に基づき国へ報告を要する事象等は該当がない旨の報告を受けた。

また、9月10日に定期検査中の2号機タービン建屋内において、ぼやが発生し、その際、作業員2名が手の甲に熱傷を負ったが、当該作業員に放射性物質による汚染・被曝はなかったこと、市長から九州電力㈱に対し、当該事象の原因究明と再発防止に万全を期すことや異常が認められた場合に速やかに連絡することなどを求める要請を行った旨の報告を受けた。

なお、調査の過程において、発電所内において火災が発生する可能性のある場所や作業内容に対する市の認識についての質疑があり、火災を引き起こす可能性のあるものを扱う場所等について、市として改めて確認するとともに、万全の予防策が講じられるよう、現場等の確認を行いたい旨の答弁があった。

また、発電所内で火災等の緊急事態が発生した場合の連絡体制についての質疑があり、発電所から救急や火災の通報があった場合は、消防局からも原子力対策課に連絡が入るようにしているが、今回の事象を踏まえ、九州電力㈱に対し、市への迅速な通報を改めて要請した旨の答弁があった。

(2) 川内原子力発電所2号機第20回定期検査計画の概要について

当局から、2号機の第20回定期検査計画について、作業内容の概要等の説明を受けた。

なお、調査の過程において、加圧器スプレイライン等の取替理由についての質疑があり、配管等については、経年化の影響により摩耗し、減肉等の現象が生じることから、予防保全や安全性向上の観点から、これまでも順次取替を実施してきており、今後も計画的に取替を実施していく旨の答弁があった。